

信頼を取り戻す、地道な政治を



衆議院決算行政監視委員会にて質問(6/21)

6月末に閉会した通常国会では、所属する国土交通委員会や決算行政監視委員会などにおいて8回の質問に立ち、国の施策や愛媛県

の課題解決について、政府の姿勢を問い質して参りました。新人ながら地域の声を国政に反映させる役割を果たせたのではないかと思います。

その後の参院選挙では、自民党圧勝という結果に終わり、「衆参ねじれ」が解消され、長らく続いた「決められない政治」からの出口が見えてきました。我が日本維新の会は、全国比例で6つ、選挙区で2つの議席を獲得させて頂きましたが、参議院において単独で議員立法を提出することができる10議席を確保できず、厳しい結果となりました。

6年前の参院選挙で発生した「衆参ねじれ」は、世界に類例を見ない政権運営の難しさから国政の停滞を招き、首相が1年交代するという事態が生じました。我が国のように選出方法や役割が、ほぼ同じ二院制で政権を掌握するためには、衆院選

挙のみならず、3年ごとに半数が改選となる参院選挙でも2回勝たなければ、安定した政権運営ができない仕組みとなっており、あまりにも国民の信を問う、国政選挙が多過ぎるのが問題です。

大事なことは、指導者が国家戦略に基づいて、政策を速やかに実行できる仕組みであり、そのため、多くの諸外国のように一定期間、指導者に任せることが何より重要です。その点、我が国の統治機構は、問題の本質が解決されたとは言い難く、引き続き、憲法改正も視野に入れた統治機構改革を進めていかななくてはなりません。

自公政権は、次の国政選挙となる参院選挙までの3年間、政策に集中することができる安定期間を得ました。今後、消費税の引き上げやTPP、社会保障など、国の命運を左右する判断の難しい課題を抱える現状を考慮すれば、評価することができ、今後の安倍首相のリーダーシップに期待をしたいと思ひます。

日本維新の会は、国政に進出して約半年しか経っておらず、新人議員が大半で経験も浅く、通常国会においても活動や政策について十分な発信ができなかったことは反省点としてあげられます。今後、党内ガバナンスの再考や地方組織作りに取り組み、地道な活動を続けていくことで、しっかり力を蓄える期間にしたいと思ひます。

県内の新人衆議院議員として平成以降で最多の質問回数!

この度の通常国会では8回の質問に立ちました。衆議院議事課によると、愛媛県を地盤とする新人の衆議院議員が初めての通常国会における質問回数としては、小選挙区制度導入後はもちろん、現在とほぼ同様の形式で委員会質疑が行われるようになった昭和50年代以降でも最多ということでした。

今後も地元を歩いて、暮らしの声を聞き、国会へつなぐよう引き続き努力する所存です。



衆議院国土交通委員会(5/10)



衆議院国土交通委員会(5/24)

国土交通委員会視察(6/19)



茨城県・独立行政法人建築研究所



東京都・首都高速道路工事現場

自転車



自転車活用プロジェクトチーム(6/10)



時間を見つけて自転車の練習